

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103458
法人名	株式会社 ケアジャパン
事業所名	グループホームハッピー
所在地	松山市中央1丁目17番35号
自己評価作成日	平成23年9月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「あなたらしい生活を応援します」を運営理念とし、皆様に日常生活を楽しく家庭的な雰囲気の中で利用者一人一人の個性、生活リズムを大切に生活して頂けるよう応援しています。商業地域に立地しながらも地域に根ざしたホーム作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎月、介護相談員の訪問があり、利用者と一緒に活動しながら利用者からケアや暮らしについての希望・意見を聞き取ってくださっている。「夜間、廊下やトイレが暗い」との、利用者からの意見を聞き取ってくださった際には、その後から、夜間、電灯を点けておくようにされている。
 昨年の春、事業所では初めて利用者の看とりを経験された。協力医は、亡くなるまでの過程や観察するべきことについて、事前に話して下さっており、職員は慌てることなく対応できたようだ。職員は、ご本人がこれまでと同じような日を送れるよう配慮され、食事がし難くなってきたころは、ご本人が甘いものがお好きだったこともあり、のど越しがよいアイスクリームを用意された。ご家族もご本人が安楽に過ごせるように器具等を持って来られる等して、ともに看とられた。現在は、「事業所で最期まで過ごしたい」と希望される利用者やご家族も半数くらいおられ、又、「その時になってみないと分からない」と考えているご家族も半数ほどいる。調査訪問時には、病院から退院する利用者を迎えに行く職員の様子が見られた。入院中も職員は、利用者の洗濯物をとりに行かれたり、様子を見に行かれる等してサポートされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームハッピー

(ユニット名) ハッピー

記入者(管理者)

氏名 柿田 理世

評価完了日

平成23年 9月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			ホーム内に理念を掲示しパンフレットにも記載しています。	
			(外部評価)	
			事業所の理念「あなたらしい生活を応援します」「地域に根ざしたホーム作り」は、パンフレットにも載せて利用者やご家族に示しておられ、又、事業所の居間にも掲示して職員間で共有されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			毎日のスーパーへの買物時や外出時に挨拶をしてGHの存在や顔を覚えていただければよい勤めています。地域での行事になるべく参加しています。町内会主催花見、勝中フェスティバル、いきがい清水交流センターのしみず祭り等。	
			(外部評価)	
			今年、近くの公園で行う婦人会のお花見に利用者や職員も参加され楽しめました。その後、婦人会の会長には、運営推進会議に参加いただいて、事業所の活動等も知っていただいた。又、職員は利用者と一緒に食材の買い出しに出かけておられ、近くのスーパーの店員の方等と顔見知りになれるよう取り組んでおられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			町内会長さん等に話をさせて頂いて、認知症や介護保険について話し合いや相談が出来る取組みを相談しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヵ月に1回運営推進会議を行い、その時のテーマに合わせて、様々な方に参加して頂き、意見を聞いて参考にしています。</p>	<p>事業所は、利用者の「普通の暮らし」を大切にしたいと考えておられることから、会議のテーマについても、利用者の日常生活の様子や事業所のケアサービスを知っていただきながら、意見をうかがってみてはどうだろうか。事業所が提供する食事の試食をしてもらい、感想を聞いてみられたり、職員の利用者への対応についても、外部者から意見をうかがう等して、事業所のサービスの質の向上につなげていかれてほしい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>会議は、ご家族の参加しやすさに配慮して、事業所行事・家族会と併せて開催されている。町内会長や民生委員の方からは、地域行事を教えていただいたり、地域包括支援センターの方からは、外出先の情報を教えていただいたりされている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>松山市のグループホーム連絡会に参加しています。介護相談員の受入れを行っています。</p>	<p>毎月、介護相談員の訪問があり、利用者と一緒に活動しながら利用者からケアや暮らしについての希望・意見を聞き取ってくださっている。「夜間、廊下やトイレが暗い」との、利用者からの意見を聞き取ってくださった際には、その後から、夜間、電灯を点けておくようにされている。</p>
			<p>(外部評価)</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束にあたる事例等資料にして職員の理解を深めています。</p>	<p>身体拘束についても、法人の研修で勉強したことを事業所に持ち帰り、資料等も用いて話し合い、職員同士で意識を同じくして取り組めるようすすめておられる。ユニット出入口には、チャイムを付け、人が出入りした際には鳴り、職員に分かるようになってきている。</p>
			<p>(外部評価)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修、外部研修を活用し理解に努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 過去に1人の入居者に成年後見制度が利用出来るように支援しました。現在でも1人の入居者が成年後見制度を利用されています。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に不安・疑問点がないかお聞きしながら、十分な説明を行っています。一カ月以上の入院となりGHに帰って来れない時には退去となる旨の説明をしています。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、家族会の案内を出してご家族様の参加機会を作り、ご意見を頂き参考にさせて頂いています。 (外部評価) 管理者、計画作成担当者は、ご家族の来訪時に利用者ご本人の健康状態や日頃の様子等を細やかに報告され、又、コミュニケーションをとりながら、ご家族との信頼関係作りに努めておられる。以前、発行されていた「ひなたぼっこ通信」は、職員の入れ替わりもあって休止されているが、今後、ご家族に事業所全体の取り組みを報告するために再開したいと考えておられる。	利用する側であるご家族からの意見や要望は事業所のサービスを良くしていくためのきっかけでもある。評価結果や家族アンケートの集計表をきっかけにされたり、ご家族も職員と一緒に活動できるような機会を作る等して、事業所のサービスを具体的に知っていただきながら「ご家族が事業所に期待していること」「気になるようなこと」について引き出してみられてはどうだろうか。又、終末期のあり方や支援については、ケアのパートナーであるご家族とも繰り返し話し合う機会を作り、方針を共有して利用者を支えていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月1回の定例の介護事業部会議を開催し職員の声を聞く機会を作っています。	
			(外部評価)	
			毎月のミーティング時、職員は、利用者の好み等を踏まえ外出先を提案して、支援につなげておられる。ユニットの入口に、利用者や職員の顔写真と名前を掲示して、ご家族等が来られた際見てもらえるようにされているユニットもあった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員に長く勤めていただく為に、リフレッシュ休暇制度を設けて心身ともにリフレッシュする機会を作っています。「えひめ子育て応援企業」に応募し、行動計画を策定して子供を育てながら働く女性を支援しています。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部研修の案内を随時提供すると共に、参加費用については全額会社負担としています。会社負担で参加した研修は報告書を書いてもらい参加できなかった職員へ説明して理解へつなげています。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			同地区内のGHと交流会を持ち意見交換をして交流を深めています。交流会を運営推進会として活用しています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前のご相談があった時にホームへ見学に来て頂いたり、ご本人に面会させて頂いたりして直接お話をさせて頂く機会を作るように努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人とは別にご家族様のお話を伺う機会を作っています。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その時に一番困っている事をお聞きして支援しています。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人の状況に合わせて出来る事を行って頂けるよう支援しています。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族会や運営推進会議を開催し、参加して頂けるよう努めています。外出企画や行事の案内をして参加して頂けるよう努めています。毎月1回ご本人の写真と一緒に状態をお知らせする手紙を発送しています。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>友人や親戚の方にホームに転居した事を伝えて頂き、来所して頂いたりしています。デイサービスを利用されていた入居者にはデイサービスでの友人と会う機会を作ったりしています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居前、建物内の法人デイサービスに通っておられた利用者等と、時々デイサービスに出かけて交流されている。調査訪問時、ご家族と外食に出かけていた利用者が、笑顔で戻って来られる様子が見られた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者や支援の必要な利用者の関係を把握して必要に応じて職員が仲介し利用者同士の交流に努めています。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去に至る段階から必要に応じてご相談をお受けし、ご本人・ご家族にとって良い方法を探し支援しています。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活支援の中で出来る限り選択できる生活を送れるように努めています。ケアプラン作成時には、日々の生活の様子やご本人と会話の参考に、ご本人主体の意識で作成しています。 (外部評価) 利用者の中には、遠慮されて希望をあまり表わさないような方もおられるようですが、職員は、利用者を食材の買い物に誘ったり、夜間時等、利用者1対1になるような場面を作って、ゆっくりお話を聞いておられる。食事時、職員は利用者「お茶は冷たいのと、熱いの、どちらがいいですか。」と、お聞きして用意されていた。さらに、利用者から希望をお聞きして、外出等の希望は必ず実現できるように努力をされている。ユニットによっては、研修時に習ったセンター方式のアセスメント様式を使い、利用者お一人について細やかに情報収集を行ってみたいところであった。	さらに利用者個々の現状に即した支援をすすめていくためにも、アセスメントの充実が期待される。職員が日々知り得た情報を蓄積するような仕組み作りや利用者の思いや暮らしへの意向を把握するためのアセスメントを工夫して、介護計画につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご本人・ご家族からお聞きしています。入居時にも情報の収集に努めています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎月アセスメント表を作成し、変化を把握できるよう努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	<p>さらに、個々のアセスメントをもとに、利用者の暮らしへの意向や社会性等を活かして、利用者が地域の中で暮らし続けられるよう計画内容を工夫していかれてほしい。</p>
			<p>毎月のアセスメント表を参考にして、ご本人・ご家族の意見をお聞きし、主治医の指導も含めてケアプランの作成を行っています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>ご家族の来訪時や遠方にご家族には電話等で、暮らしやケアについての要望を聞き取っておられる。介護計画は、6ヶ月ごとに見直すようになっており、見直しの前には、モニタリングや評価をされている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>日常の様子は生活記録に記録し、毎日の「申し送り」や月1～2回ケアカンファレンスを行って、職員間の情報共有に努めています。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>密にご家族や医療関係と連絡を取り、状況にあわせて必要な支援を行っています。</p>	
			(自己評価)	
			<p>買物や散歩など外出時の挨拶からはじめて、ご利用者と近隣のお店の方などの関係作りをしています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に決まったかかりつけ医がなければホームから情報を提供し、かかりつけ医の利用を支援しています。	
			(外部評価) 協力医が往診に来てくださるようになっていいる。利用者が服用する薬についても、職員は利用者の状態を医師に報告して相談されており、実際に薬の量が減ったような利用者もいいる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) GH内には看護職員は配置していませんが、同じ建物内のデイサービスの看護師と連携し対応しています。又、訪問診療の医師が来所した際、気づいた事や日常の様子等の情報を提供しています。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) かかりつけ医と連携して情報交換を行い、退院時には面会に行き、ご本人の状態を確認しご家族と相談して日取り等を決めています。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族・かかりつけ医と連絡を取りあいながら看取りの要望があった時には、当GH「看取りの指針」を説明し、出来る限りの対応が出来るよう取組んでいます。	
			(外部評価) 昨年の春、事業所では初めて利用者の看取りを経験された。協力医は、亡くなるまでの過程や観察するべきことについて、事前に話して下さっており、職員は慌てることなく対応できたようだ。職員は、ご本人がこれまでと同じような日を送れるよう配慮され、食事がし難くなってきたころは、ご本人が甘いものがお好きだったこともあり、のど越しがよいアイスクリームを用意された。ご家族もご本人が安楽に過ごせるように器具等を持って来られる等して、ともに看とられた。現在は、「事業所で最期まで過ごしたい」と希望される利用者やご家族も半数くらいおられ、又、「その時になってみないと分からない」と考えているご家族も半数ほどいいる。調査訪問時には、病院から退院する利用者を迎えに行く職員の様子が見られた。入院中も職員は、利用者の洗濯物をとりに行かれたり、様子を見に行かれる等してサポートされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時の緊急マニュアルを設置している。出来るだけ救急法の講座を受講し、技術の習得に努めています。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練に参加し、体験や説明を受けています。又、マニュアルや防災マップを整備しいつでも見られるようにしています。 (外部評価) 運営推進会議時、災害対策について話し合わせ、事業所周辺が商業地でもあることから、災害時には利用者、職員は外に出ず「建物内に居ることが一番安全」ということが分かったようだ。又、火災時の訓練は、廊下の防火扉の外側に避難することに決まっており、夜間を想定した訓練を行われた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご本人に合わせた声掛けやプライドを尊重した配慮を行っています。 (外部評価) 職員は利用者に笑顔で快活に対応されている。ヘッドギアを付けている利用者もおられるが外出時は帽子をかぶる等、他者からの見た目へも配慮されている。	利用者との距離感や言葉のかけ方、対応等について、この機会を活かして、職員個々で日々のケアについて振り返ってみられてはどうだろうか。さらに、管理者は、運営推進会議のメンバーやご家族にも意見をうかがいたいと考えておられた。職員の気付きを実践につなげ、事業所のケアサービスの質の向上を目指していかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でのなるべく選択の機会を作り、ご本人による決定が行えるよう努めています。何事にもご本人に声掛けを行うよう心掛けています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るかぎりご利用者の希望に添えるよう日常の支援を行っ ています。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) アクセサリーやマニキュア、化粧品等ご本人に合わせて購入 し、楽しんで頂けるよう支援しています。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日のメニューをご利用者と一緒に決めて、一緒に調理し たり味見をして頂いたりして楽しんで頂けるようにしていま す。	
			(外部評価) 週に4回、昼食は、業者からおかずが届くようになっている。 その他の食事は、職員と利用者で相談しながら決めておら れる。肉を好む利用者も多く、焼肉を楽しむこともある。調査 訪問時には利用者とホットプレートを囲み、昼食のお好み焼 きを焼いておられ「上手に焼けたね」「おいしそうやね」等、 利用者の声が聞こえていた。又、エプロンを着けて、下膳や 台拭き等をしてくださるような利用者の様子もみられた。利用 者の誕生日は、おやつ時にケーキを用意してお祝いされて いる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量と水分量はチェック表にて状態の把握が出来るよう にしています。かかりつけ医とも相談してご本人に合わせた量 の調整を行っています。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの声掛けを行い、口腔ケアを行って頂けるよう支援 しています。介助が必要な方は毎食後に行っています。義 歯を使用されているご利用者には週一回ポリドント洗浄を 行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンの把握に努め誘導や声掛けをしています。日中オムツの使用をなるべく減らしてリハビリパンツ(紙パンツ)や失禁パンツで生活出来る様支援しています。 (外部評価) 調査訪問時、食後にご自分でトイレに行かれる方や職員が誘導してトイレに行く利用者の様子がみられた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を十分に取って頂き、腹部マッサージや温めることで排便を促しています。把握できるご利用者に関しては、排便なしの日数を念頭においてバイタル等に注意しています。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 朝のバイタル測定時に希望をお聞きしています。 (外部評価) だいたい一日おきに入浴できるよう支援されている。利用者の中には「入浴した日」が分かるよう居室のカレンダーの日にちを職員が で印を付けるようにされている。又、座位が保ちにくい方等、利用者の状態によっては建物内のデイスターの機械浴で入浴される方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室での休養はいつでも行えるようにしています。エアコンで室内温度調整をしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			薬の変更時や処方時には処方箋を頂き、薬剤師の方に説明を受けています。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			習字や飲酒等ご利用者に合わせた楽しみが持てるよう支援しています。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			外に出たいと訴えのある時には、散歩等をして頂いております。日常は散歩や買物に同行にて外出の機会を作り、ホーム全体では月に2回程度外出企画を行っています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(外部評価)	
			利用者が「行ってみたい」と希望される所には、できるだけ出かけられるよう支援されている。買い物が好きな利用者と食材の買い出し等に行かれたり、いちごやぶどう狩り、花見や動物園等、季節に応じた外出や、最近では、利用者の希望でせせらぎ亭に出かけ、釣り堀等も楽しまれており、「初めてよ」という方や上手に針を外す方等もあり、利用者の意外な一面もみられたようだ。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			手紙やはがきなど書かれたら郵送のお手伝いをし、友人やご家族に電話をしたいという希望のある時は支援していません。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 車椅子を使用しているご利用者も動きやすいようゆったりとした空間作りに努めています。温度や湿度にも気を配り調整しています。季節ごとにホーム内のディスプレイを変えています。	
			(外部評価) 利用者が縫ってくださった雑巾を使用して掃除をされている。いすやソファを配置して、利用者がお好きなところに座れるようになっている。台所が見える場所にソファやいすを置いて、食事を作っている様子を見たり、職員とおしゃべりできるようにされているユニットもあった。居間の花瓶にススキを生けておられるユニットもあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを設置してのんびりとくつろげる場を作っています。リビングで椅子やソファで思い思いに過ごされています。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時にタンス等なるべくご本人が使用していたものを持って来て頂けるよう説明をしています。又、間取りに関してもその都度相談しながら変えることがあります。	
			(外部評価) 居室は、利用者の希望でテレビを持ち込んで見られるようになっている。退院して来られる利用者の居室は、リクライニングいすが入るよう空間を作り、ベッドの位置を少し移動して、職員がベッドの両側からかかわれるようにされていた。お天気の良い日は、布団を干して利用者が気持ちよく眠れるようにされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの近くには物を置かず廊下での歩行の安全に配慮しています。整理・整頓に気を配り、ご利用者目線で危険な物を置かないようにしています。	
			(外部評価)	